

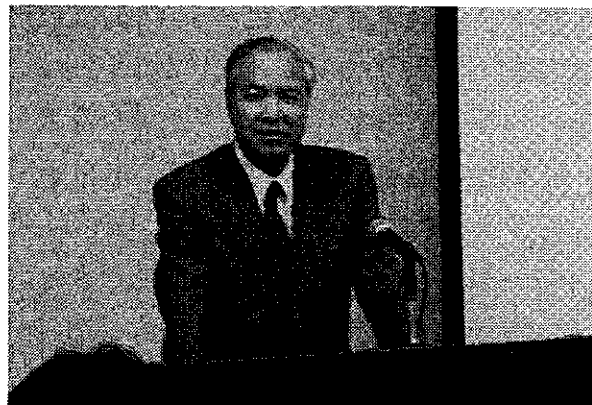
「下水道と家庭用品を考える」シンポジウム 〈21世紀水倶楽部〉

NPO法人「21世紀水倶楽部」は7月29日、パシフィコ横浜会議センターにおいて、「下水道と家庭用品を考える」シンポジウム

を開催した。講師は国土技術政策総合研究所下水処理研究室長、南山瑞彦氏、INAX創造技術研究室長、井須紀文氏、横浜市消費者団体連絡会事務局長、服部孝子氏、横浜市下水道局水質管理課長補佐、北谷道則氏の4名。各講師がそれぞれのテーマにそって基調講演し、その後、フリー・ディスカッションの場が設けられた。シンポジウムの参加者は国土交通省、日本下水道事業団、横浜市、河川環境管理財団、下水道新技術推進機構、日本下水道施設業協会など役所や社団、財団法人から約20名、民間からもコンサルタントを中心に、プラントメーカー、維持管理会社、専門紙関係など多数が出席し、その他、一般人の参加もあった。

世の中の変化につれて家庭から排出される物質の性質が変わってくる。トイレに流される商品も次々に新しいものが出てきている。下水処理という観点から環境にやさしい家庭排水とは何か。社会の利便性や環境保全、下水道運営などを総合的に考えて、望ましい家庭用品とはどのようなものなのかといったテーマで話し合われた。下水に流入する環境ホルモンの問題、洗剤を使わない洗濯機の開発、下水の汚れを極力抑えるための環境教育、シャワートイレやウォシュレットの急速な普及、女性ホルモン対策など、様々な角度から議論が展開されていた。

なお、デスポーザについては、課題が大きくなってしまいうことで、今回の対象からは除外された。



挨拶する中川事務局長